「緑と交流の逍遥の森」

～緑・水・人々の活動が溶けあうランドスケープづくり～

軽井沢は現在に至るまで、その風土的魅力に寄り添うかたちで洗練された文化が醸成され、それが原風景と融合した独特の景観をつくりだしてきました。

この場所に、軽井沢を象徴する「自然・文化・活動」が融合した景観である「逍遥の森」を町民と共につくりだし、新たな魅力として発信し、まちの未来に引きついでいきます。

霧の軽井沢「逍遥の森」立面イメージ

「逍遥の森」にたたずむ庁舎

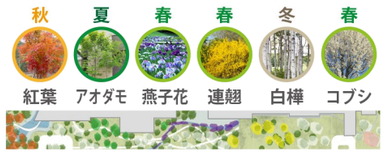
町民の憩いの場「まちニワテラス」

「まちニワ」カフェの賑わい

特に景観上配慮した事項

四季を織り込む植生

町の木であるコブシをはじめとした軽井沢の四季を感じる景観をつくります



特に景観上配慮した事項

軽井沢の水景を取り込む

レインガーデン・水桟敷等の水際の交流空間をつくります

レインガーデン

緑地の整備について

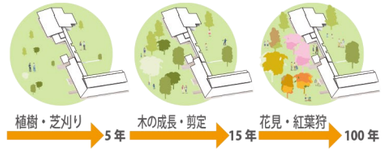
住民の環でつくる「育てる森」

町民・別荘住民・行政が協力して育てる森が、自治コミュニティを育みます

緑地の整備について

年月をかけて「育てる森」

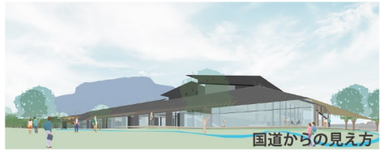
住民と時間をかけて軽井沢の新たなシンボルとなる景観をつくります



周辺環境との調和の工夫

景観に溶け込む深い軒と勾配屋根

深い軒・勾配屋根で、緑に溶け込む景観をつくります

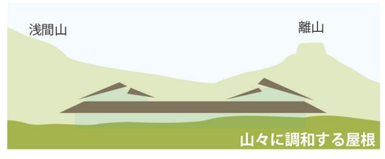


国道からの見え方

周辺環境との調和の工夫

浅間山・離山と呼応するかたち

浅間山・離山の景色となじむような山形の勾配屋根をつくります



山々に調和する屋根

安心安全を支える防災拠点としての庁舎

噴火・大地震・豪雨・豪雪対策

■噴火・泥流に備えた防災拠点

浅間山噴火で予想される泥流に備え2階以上に避難できるRC造とします

■二重・三重の防災機能

二重・三重の仕組みで、確実に防災機能を確保します

貯水	・防災井戸 ・雨水貯留槽	電気	・２回線受電 ・非常用発電機（72H） ・太陽光発電（80kW） ・蓄電池
飲料水	・非常用ろ過器		
排水	・非常用排水槽 ・マンホールトイレ	ガス	・コジェネの利用
機器	・主要機器の上階設置	通信	・通信経路の多重化

安心安全を支える防災拠点としての庁舎

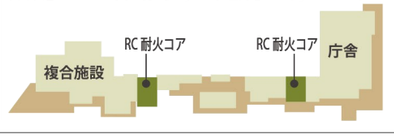
木造＋鉄骨造・RC 造の混構造

■RC 主体で重要度係数 1.5 以上確保

大地震後も庁舎の役割が継続できる高耐震性を確保します

■木造の延焼を防ぐ仕組み

エキスパンションの耐火コアを2箇所配置して火災時の延焼を防ぎます



環境に配慮した庁舎

パッシブ・デザイン庁舎

■自然エネルギーの活用

太陽光や地中熱、自然風を最大限に活用する庁舎をつくります

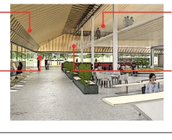
自然エネルギーの活用	
太陽光	太陽光パネル・蓄熱壁・間接光
自然風	自然換気・床下換気
雨水・井水	屋根散水・井水利用ヒートポンプ
地中熱	地中熱ヒートポンプ・アースチューブ

■カーボン・ニュートラル

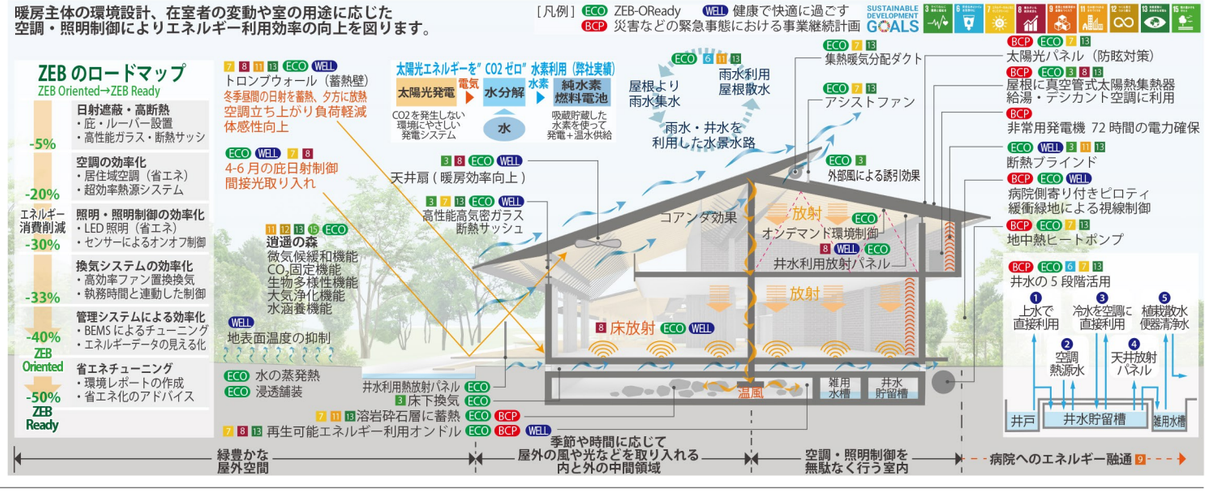
CO2排出抑制・CO2吸収の仕組みで環境にやさしい庁舎をつくります

内装：CO2を蓄積する"木材"の積極利用

外構：植樹によるCO2を吸収する仕組みづくり



空調：省エネチューニングで無駄なCO2出さない

建設：地場産材利用で輸送のCO2排出を抑制

暖房主体の環境設計、在室者の変動や室の用途に応じた空調・照明制御によりエネルギー利用効率の向上を図ります。